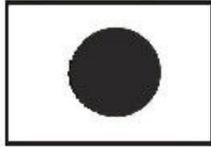


# 日中かわぐち

No.54

2016年12月1日

ホームページ  
www.k-jcfa.com



川口市日本中国友好協会  
川口市上青木1-20-3  
TEL 048-253-2177  
発行責任者 加藤展祐

編集・制作 電腦倶楽部

## 日中友好青少年書道交流展

林芳男

七月二十四日(日)甘肅省蘭州嘉禾芸術館の一行六十五名を迎えて「日中友好青少年書道交流展」をグリーンセンター内「シヤトー赤柴」で開催しました。



市長・市川会長・栗原顧問と全体写真

元県日中の理事長から栗原顧問に「川口市日中で甘肅省蘭州の子供達と書道交流展をしませんか?総勢六十五名で子供達は二十五名です」という話があったということで、四月の理事会で検討しました。急でしたが川口市日中の役割は、会場の手配

と書道展に参加する子供達を集めること、費用も含めてその他一切は、日本側の旅行社ですということでした。会場は前田副理事長がグリーンセンターのシヤトー赤柴を押さえてくれました。栗原顧問から川口市書道連盟の市川会長を紹介頂き、二十名の子供達の書道出品と交流展への協力を約束頂きました。

大きな問題点がクリアされたので、川口市日中として取り組む決定をしました。先方が日本側に賞状を出すため、こちらにも賞状を贈呈することになり「市長賞」と「教育長賞」の賞状を市に依頼し、さらに市長、教育長の挨拶もお願いしたところ、承諾の返事を頂きました。

そして主催「甘肅省蘭州嘉禾芸術館」、共催「川口市日中友好協会」「川口市書道連盟」、後援「埼玉県日中友好協会」、協賛「フクワ海外開発㈱」でスタートしました。県日中の江森副理事長がバルーンやマジックの披露を申し出て下さいました。中国語教室の先生にも開会式、閉会式の通訳をお願いしました。当日、奥ノ木市長が九時十五

分に到着されて、未到着の蘭州嘉禾芸術館の一行にやきもきしましたが、予定通り九時半前に迎えられました。お揃いのピンクの中国服を着て整然と会場に歩いて来る子供達の姿は、昔の中国の子供達とは明らかに違い、時代の流れを感じました。

忙しい合間を縫って会場に来て頂いた市長から「川口市日中は今年で四十四年目を迎える歴史ある協会であり、市長が会長を務めていることや県議の頃、中国に四十回以上視察に行き、蘭州にも何度か行ったことがあ



市川会長の揮毫

次に、この交流展の主催者を代表して蘭州嘉禾芸術館の「馮浩南」館長から、以前訪れた埼玉県との交流の話などをして頂

きました。想像していた以上に若い館長でした。



嘉禾芸術館館長挨拶

その後、入口の階段の前で市長を囲んで皆で集合写真を撮り、市長は帰られました。

続いて栗原埼玉県日中友好協会会長代行、主催者側の来賓、白西日中協会理事長、田中角栄長男田中京氏の挨拶があり開会式が終わりました。

閉会式までの時間、展示作品の見学や、昼食を挟んで県日中・江森副理事長のバルーン（風船芸）やマジック芸（大好評でした）を楽しんだり、グリーンセンター内の見学をしたりと自由行動となりました。

昼食後二時から、閉会式が始まりました。



県副理事長江森さんのバルーン

表彰式では新海教育長が「市長賞」「教育長賞」を嘉禾芸術館側に授与され「川口市には埼玉県で一番多くの中国人が住んでいます。そしてその子供達は日本の小学校、中学校に通っています」などと挨拶の言葉も頂きました。

次に川口市日中友好協会の加藤理事長から、嘉禾芸術館の子供達全員に賞状が授与されました。続いて嘉禾芸術館の館長から、川口市書道連盟の子供達全員に賞状と記念の「筆」が贈られました。



館長市長賞を受賞新海教育長より

最後を飾るお互いの代表による「日中友好」「永久和平」の共同作業が見事な「書」となり交流に花を添えました。続いて加藤理事長の挨拶を頂きました。

短時間の中で成功裏に交流展を終えることができたのは、川口市日中友好協会員は勿論、川口市書道連盟の協力や県日中友好協会、フクワ海外開発㈱の支援等多くの皆様のおかげと感謝しています。展示作品も嘉禾芸術館の子供達の180〜220cmの壮観な作品と、川口市書道連盟の子供達のしっかりした筆使いの対極的な展示に感心しました。嘉禾芸術館の六才の子の作品は特筆すべきで、皆の注目を集め人気者になっていました。

### 川口親子教室大使館訪問

前田稔夫

「第三十一回川口親子教室大使館訪問」を七月二十七日（水）に行いました。今年には川口市立青木北小学校で加藤理事長の母校です。当初締切になっても思うように生徒が集まらず心配しましたが、校長先生と打ち合わせをして、兄弟での参加を認め、また五、六年生にこだわらずに、三次募集までしたところ、昨年同様二十名の参加者が集まり、安心しました。校長先生には大変ご苦勞をかけました。

午前中に科学技術館に入館し、例年通り館内の見学をして、昼食後、一時半出発、二時大使館到着の予定でしたが、一人の女子生徒が発熱のため、医務室で休んでもらいました。偶然、女子生徒の近所の人が来ていて、本人はこのまま行きたいと泣いていましたが、説得して家に送ってもらいました。予定通り二時に大使館に到着しました。今年には汪婉大使夫人はじめ、

張書記官、王磊書記官、曹さんの出迎えを受け、大使館の見学をした後、例年同様大広間に案内されました。最初に汪婉大使夫人は挨拶の中で、三十一回を数える川口市日中の大使館訪問の先見性を称賛され、草の根交流の大切さを話されました。続いて校長先生が中国語で挨拶されたので、皆大喜びでした。そして「中国の春節」を紹介する短編映画を観賞しました。



青木北小児童の校歌合唱

次に青木北小の生徒達の質問に大使館側が答えるコーナーです。「大使館の人達はどんな仕事をしていますか?」「中国の昔話を教えて下さい」等々。逆に中国の子供達からは「最

近どんな映画を観ましたか?」とか「どんなアニメが好きですか?」など双方共通するような質問で盛り上がりました。

そして待ちに待った中華軽食タイムです。「肉まん」や「胡麻だんご」におかわり続出でした。恒例のクイズ大会では異変が起こりました。優勝者は何と青木北小の生徒でした。中国に関する質問に中国の子を抑えての優勝でした。いよいよクライマックスは、今回のお礼の気持ちを込めて「校歌」とテーマソング「さんぽ」の合唱です。子供達は緊張も溶けて元気一杯に合唱しました。そして大使館から皆に記念品が贈られました。



大使夫人・青木北校長挨拶

最後に加藤理事長がお礼の挨拶をして大使館訪問を終えまし

た。帰りのバスの中でも元気の良い声が聞こえてきました。今回の大使館訪問の経験から生徒達が外国へ興味を持つてほしい、という思いが三十一回という継続につながっていると思います。今後も四十回、五十回と続け子供達に国際交流への興味が芽生えることを願っています。



青木北小全体写真

### 日本語教室を再開して

林 芳 勇

三月二十日(日)五年振りに日本語教室を再開しました。二十五年間という長い間、一人で日本語教室を続けてこられた平山理事の話の聞き、休校状態の

日本語教室を再開できないかと思いましたが、自分に日本語を教える力もないので諦めていました。そこに矢澤理事から幸並中学校の日本語ボランティアの話があり、受講生から講師を募集したところ、四人のメンバーが直ぐに決まりました。すでにボランティア経験のある人もいました。期間は一月〜三月まで、学校では二十名の生徒が日本語授業を受けています。殆ど中国人の生徒です。校長先生によると「もつと沢山の生徒がいる学校もあり、どこの先生も苦労しています」との話でした。親子教室大使館訪問を実施した、青木北小学校の校長先生の話でも「六十名以上の生徒がいる学校もあります」とのことです。日本語教室の重要性を感じました。

三ヶ月の幸並中学校での日本語ボランティアも、皆素直な生徒で問題もなく無事終わり、授業を通じて生徒との交流に名残惜しむ人もいました。折角の日本語講師をこれで終わりにしたくないと思っていた矢先に、日本語教室を希望している中国の青年がいるということで、平山

理事、加藤美智子さん、私の三人で「高華さん」という真面目な青年に会いました。読み書きはかなり出来ませんが会話は不得手なようです。IT関係勤務で仕事中はほとんどしゃべらず日本語の会話の機会がないということです。中級から始めて、授業は原則毎週日曜日午前九時半～十一時半と以前の日本語教室と同じにしました。初めの二ヶ月間は平山理事の授業を我々が見学する形にして、生徒一人の日本語教室を再開しました。



マンツーマンの日本語教室

二ヶ月が過ぎて、平山理事の授業も終わり、私達だけの授業

が始まりました。講師や受講生募集のため会議で日本語教室の近況を話した結果、新たに「周さん」という青年が入りたいとの話が飛び込んで来ました。

初めの授業だけ平山理事に特別にお願いして「あいいうえお」から始めました。性格も明るく真面目な高さんとは良いコンビで、時々高さんに通訳もお願いしました。残念ながらビザの関係で周さんは二ヶ月程で一旦中国に戻りましたが、高さんが会社の同僚の「胡さん」を連れて来ました。湖北省出身で六ヶ月程日本語学校に通ったそうです。初級レベルですが簡単な読み書きは出来ます。講師は、加藤美智子さんと私、初級クラスの酒井さんも加わって、講師三人に生徒二人と贅沢な教室となりました。日本語教室に入りたいたいという初心者の話も出てきました。周さんの経験が生かせそうです。私達講師も受講生と一緒に進歩出来るように頑張っています。少しづつですが日本語教室としての形を整えていき楽しい授業を目指します。時間がありません。是非覗きにきて下さい。

## 中国語発表のつどい

### 酒井 三三男

「第二十七回中国語発表のつどい」が、十月二十六日、浦和コミュニティセンターで盛大に開催されました。川口市日中友好協会からは、団体部門として入門クラスが詩朗読・合唱を披露。発表部門一名、一般部門三名が日頃の成果を発表しました。結果、篠塚満男さんと酒井の二名が受賞の栄に浴しました。



発表のつどい川口の受賞者

参加された方々は中国語に取り組んだ契機や、自己の体験に基づく今後の友好活動への決意等熱心に発表されておりました。

殊に八年の時を経て再会した日本語教室の生徒との感動的な体験談、長春の大学留学時の運動会の忘れ得ぬ思い出、高校生たちの楽しい寸劇等々。



酒井さんの熱弁

初めて参加した私は緊張（イ）みでしたが発表者の真剣さと熱意に感動の連続でした。故郷は「地球」国籍は「世界」民族は「人間」という理想の平和の姿があります。が、実戦なき理想は夢物語です。教室での学習から外へ踏み出す。言語を通じた交流と信頼の醸成。発表のつどいはそんな一歩だったと思います。参加者の皆様、運営に尽力いただいたスタッフの皆様にご心より感謝し、今後の更なる盛会を念じ、報告とします。